

平成28年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	<p>建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである</p> <p>教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。</p>
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 2. 進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 3. 学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できる学力・実力を身に付けさせる。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	6年連続の東京大学現役合格をはじめとし、国公立大学に74名が合格し、四年生大学の現役合格率が85.2%という結果であった。本年度も1学期末に、3年生対象に校内で14校大学の入試担当者による大学説明会、2年生での進学講演会、1年生でのキャリア教育講演会などを実施した。夏季・冬季休業中の補習の実施や、インターネットを活用したオンライン予備校の導入により受験を意識させるとともに、更なる学力の向上を目指せた。	A
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	各クラスでの目標設定を明確化することにより、学習内容や授業展開に関して教科間での統一が図れ、生徒が理解できる授業展開を目指した。放課後小テスト実施などから、学習習慣の定着をはかり、理解度の低い生徒に関しては数学・理科で放課後サポートタイムを実施し、理解度の引き上げを目指した指導をしてきた。	B
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次の行事に向けた指導ができたか。	今年度の学校行事としては、全学年対象の体育祭、学園祭、球技大会、さかなクンを招いての教育講演会、学年単独では、1年生の校外研修や古典芸能鑑賞、2年生のカナダ修学旅行、3年生の芸術鑑賞など多くの行事を実施することができた。	A
3	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	1年生の多くの生徒が入部・活動し、文武両道を目指している。女子陸上部が全国都道府県対抗女子駅伝に出場、また、男子バスケット部、柔道部、男子陸上部、水泳部、スキー部が関東や全国規模の大会へ出場した。継続実施されている定期考査前の質問時間を利用することで、定期考査に向けた学習の問題解決ができた。	A

現役合格率の更なる向上と、国公立や私立大学への合格者の内容の充実を図るようにする。同時に、在校生への受験情報の供給や受験準備のための補習などを通して、早い段階からの受験に向けた環境づくりを継続できるようにし、生徒たちのニーズに応えられる進路指導の徹底を図る。

より明確化された各コースでのコース目標達成に向けた授業展開を行なうと共に、徹底した基礎学力の指導により、応用力まで身に付けられるような指導をする。

次年度以降も、今年度同様の行事を計画・実施できるようにする。同時に生徒会主導の行事において、参加クラスや団体以外でも、生徒の個性が発揮できるような場が出来るようにする。

今年度関東や全国規模の大会に出場した部活動の来年度以降の継続出場と入賞、それ以外のクラブに関しても、多くの上位大会に出場し活躍できるような環境作りを目指す。

平成28年度 学校自己評価システムシート（中間評価）

本庄東高等学校

目指す学校像	<p>建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである</p> <p>教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。</p>
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				中 間 評 価（10月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりと将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できる学力・実力を身に付けさせる。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	1年生対象のキャリア教育講演会、2年生対象の進学講演会を6月に実施、3年生対象の大学説明会は4回に分けのべ14大学の入試担当者を招き行った。全学年希望者を対象に夏季休業中には、学習レベルに合わせた夏期講習を5教科開講した。1年生では希望者対象に、大学のセミナーハウスでの勉強も行った。また、生徒全員が場所や時間の制約を受ずに受験に向けた学習環境ができるよう、インターネットを活用したオンライン予備校の登録を全生徒で行っている。	B	入試シーズンに向け、3年生には現役合格を目指して、本人の希望と模試結果などを参考に併願パターン作製のサポートと受験情報の提供を行う。 1・2年生に対しても、受験に向けての情報提供を継続して行い、早い時期から受験を意識させる環境づくりを継続するとともに、冬季休業中にも学習レベルに合わせた補習の実施などに多くの生徒が参加できるようにする。
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	各クラスでの目標設定を明確化することにより、学習内容や授業展開に関して教科間での統一が図れ、生徒が理解できる授業展開を目指した。放課後の小テスト実施などから、学習習慣の定着をはかり、理解度の低い生徒に関しては数学・理科で放課後サポートタイムを実施し、理解度の引き上げを目指した指導を行っている。	B	年度末に向け、各クラスが設定した目標実現に向けた授業展開と授業内容の定着と向上を目指す。同時に放課後の小テストの実施と、理解度の低い生徒に関する放課後のサポートタイム等を行い理解度を上げられるようにする。
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次の行事に向けた指導ができたか。	1年生の草津宿泊研修やキャリア教育講演会、2年生の進学講演会、3年生の芸術鑑賞を行うことができた。体育祭では、3年各クラス男子がパフォーマンスを繰り広げてくれた対抗援合戦、多くの来校者を迎えることができた。生徒全員参加によるきりぐるま祭などの行事を実施できた。	A	今後実施される行事に関しても事前指導を通じて、実施目的や意義の理解を図れるようにする。
3	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	1年生の入部率が74.6%と多くの生徒が入部し、文武両道を目指している。クラブ活性化委員会主導により、継続して実施している入部者に対する定期考査対策の質問タイムの充実を図り、理解不足の部分の補習や、問題解答力の向上に向けた取り組みなどから、定期考査での成績の向上も見られた。	B	女子陸上部、男子バスケ部、柔道部、男子陸上部、テニス部、水泳部の関東大会やインターハイ出場、入賞という結果を出している。これからも、この結果に続けるクラブが出るような環境づくりをする。